

# EASシステムの設置

- 1.EASの基本構成
- 2.ゲートの設置基準

## EASの基本構成

1. EAS はゲート、アンテナと呼ばれる**検知装置**、タグ、ラベルと呼ばれる**被検知器**、消去器、リリーサーと呼ばれる**機能解除器**の3点から構成されます。
2. ゲートは一般的に店舗の出入りに設置いたします。
3. 監視を必要とする商品・物品にはタグを貼付します。
4. リリーサー／消去器（機能・メーカーによって呼び名は異なる）は通常レジまたはカウンター周りに設置します。購入された商品に貼付されたタグはこれにより解除する事が出来ます。回収式タグの場合はここで製品から取り外し、回収します。
5. 検知機能を解除されたタグが貼付された商品・物品が、ゲートを通過しても、警報は発生しません。
6. 検知機能を解除していないタグが貼付された商品・物品がゲートを通過しようとした際には、警報をもってそれを知らせます。

## ゲートの設置基準

1. 設置時にEAS機器設置表示ステッカー及びPOPが貼付されていることを確認ください。万一貼付されていない場合は設置業者あるいはメーカーにお問い合わせください。
2. お客様がつかずいたりしない様、床、アンテナ周りに段差や突起部が出来ない様に細心の注意を払ってください。
3. アース付専用回線を用意して頂ける様、お客様にお願いして下さい。
4. 電気用品安全法に準拠した電源（PSEマーク付）を必ず使用してください。
5. ゲート型アンテナを設置する際は倒れない様にしっかり固定してください。
6. ノイズの発生源を予め確認してください。
7. 設置後必ず店舗の責任者の方から設置報告書にサイン・捺印を頂いてください。
8. 機器の故障時やトラブルの問い合わせ連絡先が、いつでもだれでも分かるような表示、シールなどが機器に貼付されていることを確認ください。※

※ 平成24年7月30日に追記しました。

## ゲートの設置基準（工程別）

1. 固定基準
  - ゲート型 ① アンカー固定 ② 移動式
  - ドア型（壁掛け型）
  - 床型
  - 天井型
2. 配線基準
3. 電源基準

## 固定基準（ゲート型）

### ① アンカー固定

不測の衝突などで転倒する事を防ぐ最も安全な固定方法。強度計算を行った上、最低2本のアンカーでアンテナを固定する。下地によって固定方法が異なるので、可能な限りお客様及びお客様の内装業者様から情報を収集する。



下地	固定方法
大理石／セラミックタイル	セラミック用ドリルなどを使い、石に穴を開けてからアンカーを打つ
木材（フローリング）	木エドリルで穴を開けてからアンカーを打つ
木材（デッキ）	直接ナットを打つか木ねじで固定する
P-タイル	直接アンカーを打つ
その他、木ねじ、鬼目ねじ、ケミカルアンカーなど状況に応じて使い分ける。	

## 固定基準（ゲート型）

### ② 移動式

アンカー固定を行わないタイプ、大別して、アンテナ自重が軽い**軽量タイプ**と、本来アンカー固定式であるが、設置環境によってアンカー固定が出来ない場合に専用台を使用して取付ける**専用台タイプ**に分かれる。専用台タイプは、JEASとして積極販売を推奨するものではないが、現場設置環境や顧客要望によりやむなく設置するものであり、転倒の危険性に十分配慮する事、および使用者側に安全面での十分な説明を行う事を徹底する事。

専用台への固定は2点以上をボルト締めする事。

また、転倒防止のPOPを付けるなど周囲に注意を促す。

## 固定基準（ドア型）

- 壁面の素材が石膏ボードなど弱い場合は予め裏面に板や鉄板で補強を施す必要がある。
- 不測の衝突など十分な強度計算を行った上、4点以上の固定を行う。
- また、場所によってはTハンガーを使うと効果的である。

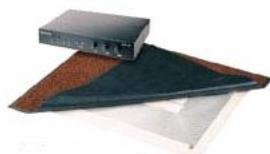


## 固定基準（床型）

床型アンテナには床置き型と床埋め型の2通りがあります。

- 床置きの場合、両面粘着テープなどで固定するが、お客様側には安全面での説明を充分に行う事。
- 上にカーペットを敷く等して、踏いたりしないよう留意する。
- 床埋め型の場合、床を数センチ～10センチ近く掘る必要があるため、必ずお客様、及び建物のオーナー様の了承を取った上で、作業にあたる事。
- アンテナ及び配線関係はネジで固定し、上からモルタルを流した時に位置がずれないように注意する事、同時に踏かないよう留意する。

床置き型



床埋め型



## 固定基準（天井型）

天井の構造によって固定方法は異なるが次の点について留意する事。

- ・ ノイズ発生源を確認すること。インバーター照明、TV、スピーカー、モーター、他の機器の配線等から離して設置する。
- ・ 天井から、30cm以上離して設置する。
- ・ 十分な強度計算を行った上、4点以上の固定を行う。
- ・ 万一の落下による事故防止のため、落下防止ワイヤーを張る。



## 配線基準

1. **埋設：** 新店など、予めPF管やCD管を埋めることができる現場であれば最もきれいに仕上がる配線方法である。お客様や建物のオーナー様などの協力が得られないと難しい設置方法。
2. **溝きり：** 溝きりカッターなどを使い深さ10 mm x 幅5から10 mm 前後の溝を切り配線を施す。シリコンコーキングやモルタルを流しこみ埋め込む。通行者の安全に配慮し、線が露出しないよう、注意する。
3. **モール配線：** ゲート間以外の配線に有効。安価でポピュラーな配線方法である。
4. **アルミスロープ：** バリアフリーを考慮し、段差が少ないものを推奨する。アルミスロープのバリや溝に配線が挟まると断線などの危険性があるので注意する。

## 配線基準

- アース付専用回線を用意して頂ける様、お客様にお願いする事。
- 電気用品安全法に準拠した電源（PSEマーク付）を使用し、正しい用法で取り付けを行う事。
- AC100Vの一般コンセントに差し込む場合はコンセントカバーを取り付けるなど、引き抜き予防に努める事。
- 電圧変動を事前にチェックする事。